

集客増につなげる「デジタル」と「アナログ」の融合

本コーナーでは、当協会のお客さまを訪問し、主力事業や独自の取組みについてご紹介させていただきます。今回訪れたのは、食品スーパーマーケットの新聞折込みチラシの印刷を手掛ける有限会社アドバンクさま。集客スマホアプリ『コラボレAR』の開発・運用や、同業大手に先駆けて導入した「LED-UV印刷」で2019年度省エネ大賞中小企業庁長官賞を受賞するなど、独自の技術で注目を集める会社です。代表取締役の渡邊 功さまに、当協会京都中営業所の所長、担当者をお招きし、攻めの経営戦略や今後の展望などについてお話をうかがいました。

食品スーパーマーケットの「新聞折込みチラシ」の一例



自社開発の『コラボレAR』で集客に悩む小規模スーパーマーケットを応援!

有限会社アドバンクは、京都を中心とする近畿圏内の食品スーパーに特化した、新聞折込みチラシの企画・制作を手掛ける印刷会社です。取引先は1~2店舗の小規模スーパーが大半で、経営の厳しさからチラシを減らしたり、大型スーパーに統合されたりする店舗も少なくありません。売上げ結果や、チラシの受注単価などによって、競合他社に乗り換えられることもある厳しい業界です。将来にわたって安定したチラシ受注を獲得するには、価格競争ではなく、集客に悩む食品スーパーの売上げ増に貢献できる仕組みが必要との思いで自社開発したのが『コラボレAR』です。

アプリで
今日もおトクに
お買い物!



『コラボレAR』は、AR(拡張現実)を用いた集客スマホアプリで、現在の登録者数は約2万人。スマホで最新のチラシ情報を見たり、タイムセールのお知らせを受け取ったり、来店するだけでポイントが加算されるなど、さまざまなメリットが設定されています。例えば、チラシが「卵1パック100円」となっている、近隣の大手スーパーが「99円」であれば、すぐに「98円」に価格変更をしてアプリを通じてプッシュ通知し、「1円でも安く」という消費者の来店獲得につなげるなど、リアルタイムの販促展開が可能です。



「価格競争ではなく、環境対策で選ばれる印刷会社をめざしています」
有限会社アドバンク 代表取締役 渡邊功さま

アナログとデジタルの融合技術で「攻めのIT経営中小企業百選」に選定

『コラボレAR』は、チラシ印刷の継続発注を条件に、各スーパーに無償で提供しています。併せて、アプリ登録を通じて取得した来店客の居住地、年齢、性別などのデータや、どのコンテンツがどれだけ閲覧されたかなど、日別や地図分布で集計・分析したマーケティングレポートを毎月お届けしています。このデータを参考にチラシの

折込みエリアを決める店舗も多く、通常は忙しくてなかなかお会いでき



チラシと連動した無料アプリ『コラボレAR』

電気でつながる エクセレント パートナー

本コーナーでは、当協会のお客さまを訪問し、主力事業や独自の取組みについてご紹介させていただきます。

ない社長さまにも、お店の状態やチラシ戦略についてじっくり話をうかがえるようになり、安定したチラシの受注につながっています。

アナログ(折込みチラシ)とデジタル(ARアプリ)の良いところを生かしたクロスメディア戦略によって、消費者はお得な情報を受け取ることができ、スーパーは集客を増やし、当社の業績も安定するという、3者が“ウィンウィンウィン”になれる仕組みを構築できました。このことが評価され、2016年には印刷会社では初の『攻めのIT経営



「省エネ対策でも削減目標を着実にクリアしておられ、素晴らしいです」
関西電気保安協会 京都中営業所
(写真左から)所長 篠崎健一、技術2課 保安技師 山本昌司

中小企業百選』(経済産業省)に選定されました。また、当社では『コラボレAR』を、スーパー以外の企業に販売もしており、ドラッグストアや大学、子供用品ショップなど多様な業種で採用されています。



有限会社アドバンク

京都市南区吉祥院嶋野間詰町52番地
Tel.075-694-1312 <http://www.adbank.co.jp>



LED-UV高速両面8色輪転印刷機と紫外線を照射するLEDランプ



環境にやさしい「LED-UV印刷」導入へ5,000万円の大胆な先行投資

チラシ受注の価格競争を避けるため、当社が今もっとも力を入れているのが環境対策です。これからの時代、「値段も品質も同じなら、環境にやさしいチラシの方が良い」という企業はきっと増えていくはず。そこで取り組んだのが、環境への負荷が小さい「LED-UV印刷」の導入です。

従来の油性印刷は、印刷したインキを熱風で乾燥させるガスドライヤーを使用するため、大量のガスを消費するうえ、熱風に耐えられる厚さの紙を使用する必要があります。LED-UV印刷では、LEDランプで紫外線を照射することによりインキを瞬間的に硬化・乾燥できるので、ガス代が不要となり、紙を薄くすることで使用量やコストを削減でき、工程を減らせる分だけ納期も短縮できます。

最大の課題は、当社の採算ベースにのるインキの開発でした。薄い紙でも定着性が良く、生産性を維持するために印刷機のスピードは落とさず、かつ画質を落とさないインキの開発は、インキメーカーさんにとっても非常にハードルが高いものでした。それでも、開発パートナーとして参画してもらえたのは、経済産業省の「ものづくり補助金」を活用して5,000万円もする高額なLED-UV印刷機を先に購入して取り組んだ当社の熱意を理解いただけたからだと思えます。



印刷品質を一定に保つLED-UVインキ自動計量装置

LED-UV印刷が省エネ大賞を受賞 新規取引先の開拓にも効果

構想から約3年。国内初となるオフセット輪転機でのLED-UV印刷方式は、2019年度の省エネ大賞 中小企業庁長官賞を受賞しました。さまざまなメディアでも紹介され、他の印刷会社が見学に来られるなど、業界でも注目されるようになりました。この受賞が、LED-UV印刷の普及と業界全体の省エネ化への後押しになればと期待しています。

受賞後は、LED-UV印刷したチラシにすべて省エネ大賞のマークを載せており、多くの取引先に喜ばれています。店舗数が多いスーパーほど環境への関心も高く、受注の安定化や新規取引先の開拓にもつながっています。また、周囲から高い評価をいただくことで、社員一人ひとりのモチベーションや環境への意識がさらに向上するなど、さまざまな効果を実感しています。来年度には、印刷機をもう一台導入し、LED-UV印刷の比率を現在の30%から50%程度に増やしていく計画です。

2019年度省エネ大賞 中小企業庁長官賞を受賞!



品質・環境・個人情報についてさまざまな認証を取得



クリーンで静かな作業環境

環境対応企業をめざしてSDGsへの取り組みをスタート

当社では、企業環境と地球環境の調和をめざし、LED-UV印刷以外にも環境に配慮したさまざまな取り組みを行っています。印刷工程においては、化学薬品や水を使うフィルムの現像処理をなくし、廃液ゼロ化を実現しました。また、従来の油性印刷においても、大豆油や亜麻仁油などの植物性油を原料とするインキを採用。石油系インキに比べVOC(揮発性有機化合物)の排出が少なく、ゴミとして埋め立てられた際にも地中でそのほとんどが分解される、環境にやさしいインキです。

つながる 365日

お客さまからいただいた声▶

保安管理契約以外のご契約
デマンド監視

数値管理できる「デマンド監視システム」は 社内のエネルギー管理に不可欠です。

環境管理者を中心にピーク時の声かけを実施

電気の使用量を24時間監視できる「デマンド監視システム」は、保安協会さんの勧めで旧工場の頃から導入。デマンド値抑制の最大のネックとなっていた夏の作業場のエアコン使用量の削減や、社内のLED化など、省エネへの取り組み効果を数値でリアルタイムに把握できるため、社員の意識向上にも大いに役立っています。環境管理者を中心に、デマンド値の削減目標を決めたり、ピーク時は互いに声かけを行ったりと全社体制で省エネに取り組んでいます。

太陽光発電システム導入にもアドバイスを

チラシの紙面作成から印刷まで、当社のすべての作業に電気は欠かせません。万一の電気トラブルは取引先のスーパーにも多大な損失を与えてしまうため、保安協会さんの定期点検は大変助かっています。来年度は太陽光発電システムの導入を計画していますが、またいろいろ相談に乗っていただきたいと考えています。今後も電気トラブルの未然防止や省エネ対策について、プロならではの視点での情報提供やアドバイスを期待しています。



有限会社アドバンク 代表取締役 渡邊功さま(写真左)

関西電気保安協会からのお礼▶

印刷機器を止めないよう、電気トラブルの未然防止をめざしています

アドバンクさまは省エネへの関心が大変高く、社員の皆さんが一丸となって取り組んでおられます。常に現状を良しとせず、どこかにムダがあるのではないかと検証を続ける姿勢は、ぜひ見習わせていただきたいと思えます。デマンド値についても、設定した削減目標を着実にクリアしておられ、「デマンド

監視システム」による“電気の見える化”がお役に立っているんだと、やり甲斐を感じています。安全管理への意識も高く、以前、印刷機器が漏電した際には早急に業者を手配して改修していただきました。折込みチラシのお仕事は、1日の遅れが致命的な信用問題になるとお聞きしており、電気トラブルの未然防止をめざし、私たちも心して定期点検にあたっています。これからも電気設備の保安管理に、ご理解とご協力をお願いいたします。

関西電気保安協会 京都中営業所 (写真右から)技術2課 保安技師 山本昌司、所長 篠崎健一